

東京都と神奈川県、埼玉県、群馬県の信用金庫6行は25日、地域を越えて中小の製造業を支援するプラットフォームを立ち上げた。自動車や半導体、機械メーカーなどの協業先を紹介し、閉業や事業転換に伴う技術移転も助ける。製造業が盛んな都県の信金が広域連携し、地域のものを支える。

製造業支援で広域連携

プラットフォームの名称は「ものづくりネットワークシンキング」。西武信金（東京・中野）、アイオー信金（群馬県伊勢崎市）、桐生信金（同県桐生市）、しののめ信金（同県富岡市）、飯能信金（埼玉県飯能市）、湘南信金（神奈川県横浜須賀野市）が参加した。西武信金子会社の地域商社、西武トレーディングTOKYO（東京・中野）が各信金の融資先企業のニーズを集約し、マ

プラットフォームに参加する信金		
信金名	預金残高	貸出金残高
アイオー信金	3223億円	1698億円
桐生信金	5766億円	3105億円
しののめ信金	1兆464億円	4282億円
飯能信金	1兆4485億円	7120億円
西武信金	2兆1953億円	1兆4954億円
湘南信金	1兆3268億円	7739億円

技術移転にも取り組む。閉業や事業転換などで企業の持つ製造技術やノウハウが捨て置かれそうになれば、必要とする企業へ移す。新事業が創出できた際は、営業エリアが重なる信金間で協調

協業先紹介や技術移転

融資を検討する。6月から参加企業を募り、アンケートでニーズを確認。7月以降、マッチングを始める。2027年度以降は大手や中堅企業が手がける新事業への参画やスタートアップとの連携を模索する。

西武信金の高橋一朗理事長は25日、同行内で開いた連携協定式で「産業構造が大きく変わるなかで、新たな受発注の仕組みを連携してつくる。多くの信金が使えらるプラットフォームに育てたい」と述べた。今回の連携が経営統合につながる可能性については「合併して規模を拡大することが意味のある時代ではない」と否定した。

参加する信金の地元は自動車産業の構造変化に揺れる地域が多い。湘南信金の本店がある横浜須賀野市では、日産が経営再建策として追浜工場の閉鎖を決めた。アイオー信金や桐生信金の地盤にはスバルの工場がある。同社も自社開発の電気自動車（EV）の発売を延期するなど厳

しい事業環境に直面する。部品メーカーなどは空洞化の懸念と向き合っている。アイオー信金の清水克美理事長は「スバルの取引先には新たな産業や社内第2創業を目指す会社が出てくる」と話す。信金は営業地域外の融資は原則としてできない。融資先を確保し、地域産業を支えるには広域連携が不可欠だと判断した。飯能信金の松下寿夫理事長は「ドローンやフ

ィジカルAI（人口知能）に挑戦する企業が増えてくる。新たな業界に挑戦する企業を手伝いたい」と話した。

県域をまたいだ地域金融機関の連携では、群馬県と埼玉県に本店を置く5信用組合が22日、広域連携「上武地域信組アライアンス」を発足させた。地域を越えた金融機関の連携が加速している。

（田崎陸）